道の駅「きなんせ岩美」開所式　岩美町長あいさつ

皆さん、おはようございます。今日は海の日でございます。

岩美町が最も輝き、賑わうシーズンの到来となりました。この良き日、道の駅「きなんせ岩美」の開所式を開催できますことを心から感謝申し上げます。

また、大変お忙しい中、早朝からご臨席を賜りました石破大臣、赤沢副大臣、舞立先生、そして、鳥取県平井知事、国土交通省からは中国整備局の尾藤局長、ご出席・ご臨席いただきましてありがとうございます。

始めに、この道の駅は国土交通省との協定に基づき、整備にも大変大きなお力添えをいただきまして、県内で１３箇所目となる道の駅として本日めでたく、開所の運びになったところでございます。重ねて厚くお礼申し上げます。

さて、岩美町は平成の大合併から１２年が経とうとしております。単独自立を決めて町民の皆さんと、岩美の町に暮らすということに自信と誇りを持ちながら自分を律する自律の町を目指してきました。その間、昨年の３月には岩美町の長い間の悲願でありました駟馳山バイパスが開通いたしました。また、来年３月にはさらに道竹城トンネルが貫通して、浦富インターチェンジまで開通します。そうした道路整備が以前では考えられなかったほど、進められて参りました。

折りしも、現在各市町村では人口減少対策に向けて総合戦略を一生懸命策定しているところであります。岩美町もかねてから、この定住対策というのは非常に重要だということで様々な施策に取り組んできたところであります。とりわけ、岩美町の基幹産業である農業と漁業、そして観光というのはこの戦略を進めていく上で大きな鍵を握る部分だと考えております。そうした中で、こうした立派な道の駅が完成いたしました。農家の皆さんが生産をされた野菜や農作物、そして漁業の町である岩美町の漁業者の皆さんが漁獲された様々な海産物をこれまで以上にブランド力を高めて、多くの方に、まずは町民の方に毎日お届けできる道の駅、そして岩美町にお越しいただく方に素晴らしい観光の素材の一つとして岩美の食の魅力を満喫していただく施設にしなければならないと思っております。道の駅は岩美町の農業、漁業、観光の中核拠点として、また今後、地域振興において６次産業は大きな役割を担い、就労の場としても付加価値を高めるという点からも、重要な施設になってくると思っております。そうした部分をこの道の駅が担いながら、ぜひ発展をさせたいと思っております。

先日、道の駅の新しい職員さんにお話をする機会を設けていただきました。やはり、これから道の駅が勝ち抜いていくためには、店員の皆さんの笑顔が商品に勝る武器だというふうに申し上げたところであります。また、「快適さというのはトイレをいかに美しいトイレとして維持するかということにかかっていくと思いますよ。」とお話をしたところであります。

この道の駅の活用について些細なことですが２つぜひお話したいことがあります。それ

は、漁業者の方が「油代が高くて、漁に出ても赤字になってしまう、やっとれんわい」というお話であります。そして、お年寄りが宅急便で都会に出ておられる子どもさんやご親戚に季節の野菜などを送られる姿を見ます。「宅急便の運賃のほうが高くつく」そういうお声を何度も聞きました。そういう中で、漁業者の方には引き続き漁を続けて獲った魚を店に出していただく、お年寄りの方も引き続き野菜を一生懸命作っていただき出品していただく、それを失ってはならないと思っております。そういう意味で、この道の駅を消費者と生産者の顔が見える接点の絆の場所にもしたいというふうに考えておりますし、岩美の再生に向けての始発駅にぜひしたいとそういう意気込みでおります。

ご協力をいただいた皆さんに、今後ともご指導等お力添えをいただきますことをお願い申し上げて、簡単ではございますがご挨拶に代えさせていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。